

## 足尾銅山の世界遺産登録を目指して

足尾銅山の世界遺産登録を推進する会 会長 神山勝次

これまで足尾銅山というと、大きな公害を引き起こした“影の部分”がクローズアップされ、明治維新以降の日本の近代化を支えたという紛れもない事実が覆い隠されてきたことは否めない。銅の採掘、精錬等の技術発展もさることながら、明治政府からの度重なる公害防止の改善命令により、当時の技術ではその効果は極めて限定的なものであったにせよ、町挙げて取り組んだのも事実であり、その意味では少し大袈裟だが、公害防止の原点とも考えられる。現在煙害により禿山と化した松木において、緑を取り戻そうと“緑を育てる会”を中心に植樹運動が展開されております。今、地球温暖化を含めた環境保全が人類にとって大きな課題となっている事を考えるとき、足尾銅山の残した功罪は等しく後世に語り継ぐべきものであり、産業遺産として保護されるべきものであると考えます。

私たちが足尾銅山の世界遺産登録を目指すのにはユネスコの世界遺産に対する考え方の変化があります。これまでは産業革命以前（日本では江戸時代以前）の大自然や記念物的建造物などに偏っていました。そこに、産業遺産すなわち、人類の科学技術の発展と産業活動の進展の成果を例証するものなどが加わりました。足尾銅山は産業遺産として一級品の資源を持っていることは多くの方々が認めているところです。

これまで足尾銅山の世界遺産登録を考える会として5回の勉強会を開催し、多くの知識を学ぶことができました。その中で第4回目には“近代産業遺産を活用した地域づくり”という演題で、経済産業省の近代産業遺産保存・活用推進チーム長の古屋 剛氏よりご講演を頂き、第5回目には“鉱山遺跡に関する世界遺産の動向について”世界遺産登録のお膝元であります文化庁文化財部記念物課岩本健吾課長より大変に貴重なお話をお伺いすることができました。ここに至るまでには、足尾銅山の世界遺産登録に対しまして深いご理解を頂いております森山まゆみ衆議院議員のご尽力をいただきました。厚く御礼をもうしあげます。

しかしながら、勉強会を重ねるごとに、足尾銅山の世界遺産登録には未だハードルは高く、“いばらの道”といわざるをえません。

その中、5月には日光市に足尾銅山の世界遺産登録推進準備検討委員会が発足し、登録に向けた第一歩が始まりました。ここに私たちは足尾銅山の世界遺産登録に向け、一步踏み込んだ“足尾銅山の世界遺産登録を推進する会”と改め、地元日光市はいうまでもなく、県内外さらに世界に向けて広く、足尾銅山の世界遺産登録の意義を発信してゆきたいと決意を新たにしております。

また、事務局も下記の通り、足尾歴史館に設置いたしましたのでご利用ください。

事務局 NPO法人足尾歴史館

〒321-1523

栃木県日光市足尾町松原2825

TEL/FAX 0288(93)0189

(ホームページ) <http://www18.ocn.ne.jp/rekisikan/>

E-mail: [ashio-rekisikan@world.ocn.jp](mailto:ashio-rekisikan@world.ocn.jp)